

A M D A と岡山 B L L 南ア事務所活動スタート

南部アフリカの人道援助拠点として、アジア医師連絡協議会（A M D A、本部岡山市椿津、菅波茂代表）と部落解放同盟県連合会（岡山 B L L、岡山市丸の内、伊沢卓士代表）などが南アフリカ共和国の首都プレトリアに開設した合同事務所の活動がこのほど、始まった。アパルトヘイト（人種隔離政策）後の混乱が続く同国の医療、教育面などでの水準向上へ期待が集まっている。

A M D A の海外活動拠点 D A から所長の三浦恭子女士としては、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、タンザニアなどに次ぐ三番目の海外事務所。岡山 B L L としては初任員の三村茂さん（三〇〇）総社市の海外活動拠点で、旧黒人居住区に暮らす貧しい人たちの医療、教育面での支援をスタートした。

や自立へ向けてのバックアップなどを目的とする。大統領府から歩いて約十分の高層ビル内にあり、

広さは約九十平方メートル。A M （アフリカ民族会議）女性

連盟議長や南ア政府、現地 N G O （非政府組織）関係者のほかケニア、ジンバブエ、ナミビアなど近隣諸国の大使ら計約二百人が出席。A M D A の近藤祐次事務局長と、岡山 B L L の伊沢代表らも同席した。

式では、ウィニー議長が「行動的で人道的なハートを持って南アフリカ

かがわせた。事務所スタッフは早速、現地 N G O と連携を図りながら、女性団体や

大きな期待集め 現地組織と連携

医療や教育の向上支援



A M D A などの合同事務所開所式であいさつするウィニー・マンデラさん（12月10日、南ア・プレトリア）

電気や水道がないところも多く、居住環境は劣悪という。開所式出席に合せて現地を視察した岡山 B L L の楠木裕樹さん（三〇）は「白人との教育レベル、経済格差は厳然として残り、支援の重要性をあらためて認識した」と話す。

国際的な医療救援活動を展開している A M D A と、人権問題への取り組みを進める岡山 B L L が手を結んだ今回のプロジェクトには、連合岡山（村上格会長）も参加。「人員の派遣などを検討したい」（森本栄事務局長）とし、岡山 B L L も必要に応じて具内でのカンパ

作り、活動を本格化させる白人単独支配からあらゆる人種が共存する議会制民主主義体制への移行を果たす。南アは一昨年五月、三百四十人以上にわたるアパルトヘイトに終止符を打ち、だが、旧黒人居住区では

民族団体などさまざまな組織の要望の取りまとめ、二、三カ月後をめどに具体的な支援プログラムを